

韓 国

Republic of Korea

| | 2015年 | 2016年 | 2017年 |
|------------------------------------|----------|----------|----------|
| ①人口：5,145万人（2017年中位推計） | | | |
| ②面積：10万364km ² （2017年末） | | | |
| ③1人あたりGDP：2万9,744米ドル （2017年） | | | |
| ④実質GDP成長率（%） | 2.8 | 2.9 | 3.1 |
| ⑤消費者物価上昇率（%） | 0.7 | 1.0 | 1.9 |
| ⑥失業率（%） | 3.6 | 3.7 | 3.7 |
| ⑦貿易収支（100万米ドル） | 122,269 | 118,895 | 119,889 |
| ⑧経常収支（100万米ドル） | 105,940 | 99,243 | 78,460 |
| ⑨外貨準備高（100万米ドル） | 367,962 | 371,102 | 389,267 |
| ⑩対外債務残高（100万米ドル） | 396,058 | 384,130 | 418,824 |
| ⑪為替レート（1米ドルにつき、 韓国ウォン、期中平均） | 1,131.16 | 1,160.43 | 1,130.42 |

〔注〕⑦：国際収支ベース（財のみ）、⑨金を含む

〔出所〕①⑤⑥：統計庁、②：国土交通部、③④⑦～⑩：韓国銀行、⑪：IMF

2017年の韓国の実質GDP成長率は、半導体などの輸出の拡大、堅調な設備投資・建設投資により3%台を回復した。通関ベースの輸出入はいずれも3年ぶりに増加に転じた。輸出は半導体の他、石油製品、石油化学製品などが、輸入は原油、半導体製造装置などが大幅に増加した。2017年の対内直接投資は不動産や化学工業などが増加し、過去最高を記録した。対外直接投資も北米、アジア、欧州向けなどが増加し、過去最高を記録した。日本との関係では、対日輸出は6年ぶりに増加に転じ、対日輸入は2年連続で増加した。日本の対韓直接投資は製造業、サービス業とも増加し、5年ぶりに増加に転じた。韓国の対日直接投資は不動産業が急増した。

3年ぶりに3%台の経済成長を達成

2017年の実質GDP成長率は3.1%と、3年ぶりに3%台の成長を記録した。需要項目別にみると、総固定資本形成が8.6%増と堅調だったのが目を引く。総固定資本形成の内訳をみると、設備投資は半導体関連などの投資が旺盛で、14.6%増と7年ぶりの高い伸びを記録した。他方、建設投資も民間住宅が堅調で、7.6%増と比較的高い伸びが続いた。その他の主な需要項目についてみると、民間最終消費支出は2.6%増と高めの成長を記録、財貨・サービスの輸出は、半導体などの輸出が好調だった一方で、自動車などの一部の財の輸出や、サービス輸出が不振だったため、1.9%増にとどまった。

2018年第1四半期の実質GDP成長率は前期比1.0%だった。年率換算すると（いわゆる「瞬間風速」で）4.1%の高い水準となるが、数字上不振だった前期の反動も影響していると考えられるべきであろう。

表1 韓国の需要項目別実質GDP成長率

| | 2016年 | 2017年 | | | | 2018年 | |
|------------|-------|-------|-----|------|-----|-------|-----|
| | | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | | |
| 実質GDP成長率 | 2.9 | 3.1 | 1.0 | 0.6 | 1.4 | △0.2 | 1.0 |
| 民間最終消費支出 | 2.5 | 2.6 | 0.5 | 1.0 | 0.8 | 1.0 | 0.7 |
| 政府最終消費支出 | 4.5 | 3.4 | 0.6 | 1.2 | 1.9 | 0.5 | 2.2 |
| 総固定資本形成 | 5.6 | 8.6 | 3.6 | 1.8 | 0.9 | △1.2 | 2.0 |
| 財貨・サービスの輸出 | 2.6 | 1.9 | 2.1 | △2.7 | 5.6 | △5.3 | 4.4 |
| 財貨・サービスの輸入 | 4.7 | 7.0 | 4.9 | △1.0 | 3.2 | △2.9 | 4.9 |

〔注〕2010年価格。四半期データは季節調整済み・前期比。

〔出所〕韓国銀行

2018年通年の実質GDP成長率見通しについて、韓国政府（2017年12月発表）、韓国銀行（中央銀行、2018年4月発表）はいずれも3.0%と、2年連続して3%成長を達成するとみている。その理由について、韓国政府では「世界経済の好転、政府の政策効果などにより、輸出・消費を中心に、成長基調が持続する」、韓国銀行では「好調な世界経済を背景に、輸出、設備投資が引き続き好調で、消費も着実に増加するため、経済の成長基調が持続する」としている。ただし、民間機関の中には、半導体などの輸出の伸びや、設備投資・建設投資の伸びが減速するため、3%の経済成長達成は容易ではないとの見方も出ている。さらに、原油高、米中貿易摩擦激化、為替の大幅な変動といった外部環境悪化リスクを警戒する向きもある。

2017年5月に発足した文在寅政権の経済政策は「人中心の経済」のスローガンの下、「雇用・所得主導の成長」「革新成長」「公正な経済」の実現に力点を置いている。この

うち、看板政策となっているのが「雇用・所得主導の成長」である。韓国の失業者数は2013年（80万8,000人）を底に増加に転じ、2016年には100万9,000人と、リーマン・ショック後の景気後退時（2009年89万4,000人、2010年92万4,000人）を上回り、現行方式の雇用統計になった2000年以降で初めて100万人の大台を記録した。文政権は、(1)「雇用増加→所得増加→消費増加」のプロセスで経済成長を実現す

る、(2) 雇用増加により所得不平等の改善を図る、(3) 雇用増加と雇用の安定により国民の生活の質を高める、といった目標を軸に、雇用政策を推進している。すでに実行されている主な具体的政策として、公共部門の雇用拡大、最低賃金の大幅引き上げ、週当たり労働時間の上限の引き下げの三つが挙げられるが、それでも、肝心の雇用情勢は改善に向かっているとは言いがたい。2017年の失業者数は102万3,000人と、さらに増加し、2018年に入ってから改善は見られない。また、とりわけ雇用情勢が深刻な若年層を巡っては、15～29歳の失業率が2016年、2017年とも2000年以降で最悪の9.8%で高止まりしている。文政権にとって雇用問題は最優先の経済政策上の課題といえよう。

■半導体などが輸出を牽引

2017年の輸出入（通関ベース、以下同様）は、輸出が前年比15.8%増の5,737億ドル、輸入は同17.8%増の4,785億ドルだった。輸出入とも3年ぶりに増加に転じ、特に、輸出は2014年（5,727億ドル）を抜き、過去最高を記録した。また、貿易黒字は過去最高の952億ドルだった。

輸出を大きく牽引したのが半導体である。半導体輸出は57.4%増と大幅に増加し、2017年の輸出増加分全体の45.6%を半導体輸出の増加分が占めた。半導体輸出の増加

は、需給の逼迫による価格上昇によるところが大きい。2018年1月の産業通商資源部の発表によると、2016年から2017年に、DRAM (DDR4 4Gb) 価格は89.9%上昇、NAND型フラッシュメモリー（64Gb）価格は49.1%上昇した。

半導体以外では、石油製品、石油化学製品（合成樹脂など）、船舶海洋構造物および部品などが輸出拡大に一定程度寄与した。このうち、石油製品や石油化学製品の輸出は、原油価格上昇に起因した輸出単価の上昇と韓国国内の生産拡大により2桁増を記録した。船舶海洋構造物および部品の輸出は、低調だった2016年（前年比14.6%減）の反動もあり、大きく増加した。

半面、自動車、フラットパネルディスプレイおよびセンサーの輸出は1桁増と、相対的に伸び悩んだ。自動車は、最大の輸出先の米国向けが6.4%減と不振だったことが大きく影響した。フラットパネルディスプレイおよびセンサーの輸出は、有機ELディスプレイが大幅に増えたものの、液晶ディスプレイが微減となり、全体では1桁増にとどまった。さらに、産業用電子製品の輸出は、コンピューターは増加したものの、携帯電話が韓国企業の海外生産シフトやグローバル市場での競争激化により前年比25.5%減を記録したため、全体でも2桁減となった。

輸出を国・地域別にみると、最大の輸出先の中国は14.2%

表2 韓国の主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ドル、%)

| | 輸出 (FOB) | | | | | 輸入 (CIF) | | | |
|----------------------|----------|---------|-------|-------|-----------------|----------|---------|-------|-------|
| | 2016年 | | 2017年 | | | 2016年 | | 2017年 | |
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 | | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 農林水産物 | 7,699 | 8,177 | 1.4 | 6.2 | 農林水産物 | 31,509 | 34,156 | 7.1 | 8.4 |
| 鉱産物 | 30,162 | 38,172 | 6.7 | 26.6 | 農産物 | 16,871 | 17,622 | 3.7 | 4.4 |
| 鉱物性燃料 | 26,711 | 35,477 | 6.2 | 32.8 | 鉱産物 | 96,070 | 129,032 | 27.0 | 34.3 |
| 石油製品 | 26,472 | 35,037 | 6.1 | 32.4 | 金属鉱物 | 13,345 | 17,657 | 3.7 | 32.3 |
| 化学工業製品 | 60,109 | 71,695 | 12.5 | 19.3 | 鉱物性燃料 | 80,943 | 109,466 | 22.9 | 35.2 |
| 石油化学製品 | 36,164 | 44,689 | 7.8 | 23.6 | 原油 | 44,295 | 59,603 | 12.5 | 34.6 |
| 精密化学製品 | 17,016 | 19,822 | 3.5 | 16.5 | 石炭 | 9,310 | 15,179 | 3.2 | 63.0 |
| プラスチック・ゴムおよび革製品 | 13,846 | 14,541 | 2.5 | 5.0 | 天然ガス | 12,170 | 15,616 | 3.3 | 28.3 |
| 繊維類 | 13,807 | 13,742 | 2.4 | △0.5 | 化学工業製品 | 44,898 | 50,119 | 10.5 | 11.6 |
| 生活用品 | 7,252 | 8,895 | 1.6 | 22.7 | 精密化学製品 | 22,519 | 25,170 | 5.3 | 11.8 |
| 鉄鋼・金属製品 | 38,728 | 46,182 | 8.1 | 19.2 | プラスチック・ゴムおよび革製品 | 6,916 | 7,335 | 1.5 | 6.1 |
| 鉄鋼製品 | 28,535 | 34,211 | 6.0 | 19.9 | 繊維類 | 14,507 | 15,194 | 3.2 | 4.7 |
| 機械類 | 152,673 | 167,514 | 29.2 | 9.7 | 生活用品 | 14,174 | 15,632 | 3.3 | 10.3 |
| 基礎産業機械 | 16,138 | 17,504 | 3.1 | 8.5 | 鉄鋼・金属製品 | 33,483 | 37,457 | 7.8 | 11.9 |
| 産業機械 | 14,394 | 16,061 | 2.8 | 11.6 | 鉄鋼製品 | 19,994 | 21,885 | 4.6 | 9.5 |
| 輸送機械 | 102,851 | 110,437 | 19.3 | 7.4 | 非鉄金属製品 | 12,861 | 14,834 | 3.1 | 15.3 |
| 自動車 | 40,155 | 41,690 | 7.3 | 3.8 | 機械類 | 64,988 | 77,198 | 16.1 | 18.8 |
| 船舶海洋構造物および部品 | 34,268 | 42,182 | 7.4 | 23.1 | 精密機械 | 12,380 | 23,967 | 5.0 | 93.6 |
| 電子・電気製品 | 169,773 | 203,425 | 35.5 | 19.8 | 半導体製造装置 | 8,764 | 19,316 | 4.0 | 120.4 |
| 産業用電子製品 | 46,741 | 41,030 | 7.2 | △12.2 | 輸送機械 | 25,286 | 23,189 | 4.8 | △8.3 |
| 電子部品 | 100,650 | 141,361 | 24.6 | 40.4 | 電子・電気製品 | 97,836 | 110,586 | 23.1 | 13.0 |
| 半導体 | 62,228 | 97,937 | 17.1 | 57.4 | 産業用電子製品 | 34,993 | 38,161 | 8.0 | 9.1 |
| フラットパネルディスプレイおよびセンサー | 25,306 | 27,543 | 4.8 | 8.8 | 電子部品 | 46,704 | 54,390 | 11.4 | 16.5 |
| 電気機器 | 11,038 | 12,204 | 2.1 | 10.6 | 半導体 | 36,610 | 41,177 | 8.6 | 12.5 |
| 雑製品 | 1,377 | 1,351 | 0.2 | △1.8 | 雑製品 | 1,811 | 1,770 | 0.4 | △2.3 |
| 合計 | 495,426 | 573,694 | 100.0 | 15.8 | 合計 | 406,193 | 478,478 | 100.0 | 17.8 |

[注] 品目区分は韓国独自コードのMTIに依拠。MTI1桁ベース全品目、MTI2桁ベース輸出入上位10品目（2017年）、MTI3桁ベース輸出入上位5品目（同）を掲載。

[出所] 韓国貿易協会

表3 韓国の主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ドル、%)

| | 輸出 (FOB) | | | | 輸入 (CIF) | | | |
|---------|----------|---------|-------|-------|----------|---------|-------|-------|
| | 2016年 | | 2017年 | | 2016年 | | 2017年 | |
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| アジア | 284,366 | 338,231 | 59.0 | 18.9 | 201,972 | 233,449 | 48.8 | 15.6 |
| 日本 | 24,355 | 26,816 | 4.7 | 10.1 | 47,467 | 55,125 | 11.5 | 16.1 |
| 中国 | 124,433 | 142,120 | 24.8 | 14.2 | 86,980 | 97,860 | 20.5 | 12.5 |
| 香港 | 32,782 | 39,112 | 6.8 | 19.3 | 1,615 | 1,879 | 0.4 | 16.4 |
| 台湾 | 12,220 | 14,898 | 2.6 | 21.9 | 16,403 | 18,073 | 3.8 | 10.2 |
| ASEAN | 74,518 | 95,248 | 16.6 | 27.8 | 44,319 | 53,822 | 11.2 | 21.4 |
| ベトナム | 32,630 | 47,754 | 8.3 | 46.3 | 12,495 | 16,177 | 3.4 | 29.5 |
| シンガポール | 12,459 | 11,652 | 2.0 | △6.5 | 6,806 | 8,905 | 1.9 | 30.8 |
| フィリピン | 7,278 | 10,594 | 1.8 | 45.5 | 3,229 | 3,702 | 0.8 | 14.7 |
| インドネシア | 6,609 | 8,404 | 1.5 | 27.2 | 8,285 | 9,571 | 2.0 | 15.5 |
| インド | 11,596 | 15,056 | 2.6 | 29.8 | 4,189 | 4,948 | 1.0 | 18.1 |
| 北米 | 71,347 | 73,327 | 12.8 | 2.8 | 47,158 | 55,792 | 11.7 | 18.3 |
| 米国 | 66,462 | 68,610 | 12.0 | 3.2 | 43,216 | 50,749 | 10.6 | 17.4 |
| 欧州 | 62,010 | 73,338 | 12.8 | 18.3 | 65,944 | 74,893 | 15.7 | 13.6 |
| EU28 | 46,610 | 54,038 | 9.4 | 15.9 | 51,902 | 57,279 | 12.0 | 10.4 |
| ドイツ | 6,443 | 8,484 | 1.5 | 31.7 | 18,917 | 19,749 | 4.1 | 4.4 |
| 英国 | 6,288 | 8,122 | 1.4 | 29.2 | 5,212 | 6,319 | 1.3 | 21.2 |
| ロシア | 4,769 | 6,907 | 1.2 | 44.8 | 8,641 | 12,040 | 2.5 | 39.3 |
| 中東 | 26,228 | 24,380 | 4.2 | △7.0 | 54,126 | 70,153 | 14.7 | 29.6 |
| GCC | 14,251 | 13,065 | 2.3 | △8.3 | 42,642 | 52,736 | 11.0 | 23.7 |
| サウジアラビア | 5,644 | 5,147 | 0.9 | △8.8 | 15,742 | 19,590 | 4.1 | 24.4 |
| 中南米 | 25,441 | 28,095 | 4.9 | 10.4 | 15,217 | 17,081 | 3.6 | 12.2 |
| メキシコ | 9,721 | 10,933 | 1.9 | 12.5 | 3,695 | 4,407 | 0.9 | 19.3 |
| ブラジル | 4,457 | 5,505 | 1.0 | 23.5 | 3,445 | 3,702 | 0.8 | 7.5 |
| 大洋州 | 17,185 | 28,709 | 5.0 | 67.1 | 16,844 | 20,931 | 4.4 | 24.3 |
| オーストラリア | 7,501 | 19,862 | 3.5 | 164.8 | 15,176 | 19,160 | 4.0 | 26.3 |
| アフリカ | 8,813 | 7,530 | 1.3 | △14.6 | 4,563 | 5,352 | 1.1 | 17.3 |
| その他 | 37 | 84 | 0.0 | 126.9 | 365 | 827 | 0.2 | 126.3 |
| 合計 | 495,426 | 573,694 | 100.0 | 15.8 | 406,193 | 478,478 | 100.0 | 17.8 |

〔出所〕韓国貿易協会

増と、4年ぶりに増加に転じた。特に、半導体が62.3%増と急増し、対中輸出を牽引した。ところで、2017年の韓中関係は高高度防衛ミサイル (THAAD) 配備を巡り厳しい局面が続いた。そうした中でも、韓国の対中輸出は中間財が多く、THAAD 配備問題が対中輸出全体に大きな影響を与えたとはいえない。しかし、「(2017年の農林畜産食品の対中輸出は) THAAD の影響の限界を克服できず、前年比10.0%減少した」(農林畜産食品部、2018年1月4日発表) といったように、一部品目の対中輸出はTHAAD 配備問題の影響を受けた。ちなみに、国際収支統計をみると、THAAD 配備問題の影響はサービス収支に顕著に表れている。韓国の対中サービス収支は2016年51億3,730万ドルの黒字から2017年2億8,660万ドルの赤字に落ち込んだ。内訳をみると、THAAD 配備問題に起因したとみられる訪韓中国人観光客数の大幅減 (2016年807万人から2017年417万人に減少) により、旅行収入が2016年103億3,550万ドルから2017年55億8,390万ドルに減少し、対中サービス収支悪化の主要因になった。

米国向け輸出は3年ぶりに増加に転じたものの、3.2%増と低い増加率にとどまった。石油製品、鉄鋼製品などが2桁増だった半面、輸送機械 (特に、自動車、自動車部品)、産業用電子製品 (特に、携帯電話) の輸出が減少

した。特に、自動車・自動車部品は米国市場での韓国ブランド車の販売不振が影響した。

中国・米国に次ぐ第3の輸出先となったベトナムは46.3%増と急増した。韓国企業のベトナム進出の拡大に伴って、半導体やフラットパネルディスプレイなどの部材の輸出が急増したところによるところが大きい。

他方、2017年の輸入を主要品目別にみると、原油をはじめとした鉱物性燃料の輸入が35.2%増と大幅に増えた。これは主に資源価格上昇に伴うもので、数量ベースでは6.1%増と低めの増加率にとどまっている。また、半導体の生産能力増強を受け、半導体製造装置の輸入が急増した。なお、ほとんどの主要品目の輸入が増加した中で、輸送機械は航空機および部品の輸入が大幅減になったことなどにより、8.3%減となった。

ついで、国・地域別にみると、原油高などを受けて中東やロシアからの輸入が急増した他、主要国・地域からの輸入がおしなべて2桁で増加した。

2018年第1四半期についてみると、輸出は前年同期比10.1%増の1,454億ドルだった。半導体の輸出が45.9%増と急増し、石油製品も15.1%増と好調だった。半面、フラットパネルディスプレイおよびセンサーは15.3%減、自動車部品は11.9%減となった。主要国・地域別には、中国 (14.8%増)、ベトナム (17.5%増) は2桁増が続いた半面、米国 (2.9%減) は自動車・同部品の輸出不振を受けて減少した。他方、2018年第1四半期の輸入は、前年同期比13.6%増の1,323億ドルだった。幅広い品目で輸入が好調だったが、特に、半導体製造装置が72.0%増と高い伸びを示した他、原油、天然ガスなどの輸入が大幅に増加した。国・地域別には、特に、中東、ロシアからの輸入が大幅に増えた。

2018年通年の輸出の展望について、産業通商資源部は年初に「世界経済の回復基調が続く見通しであるが、『新3高 (ウォン高、高金利、原油価格上昇)』、保護貿易主義の拡大といったリスクがある」「先手を打ってリスクに対応し、(中略) 輸出4%以上の増加を目標に政策を遂行する」と発表している。他方、2018年通年の輸入については、韓国輸入協会の2017年12月発表の予測を引用し、原油価格上昇や国内の中間財・資本財需要増加などで6.3%増加するとしている。

■韓米FTA見直しで大筋合意

2018年6月現在、韓国は15のFTAが発効、発効済みのFTA相手国との貿易額が貿易総額に占める割合は68.2%（2017年）に達している。

2017年以降、新たに発効した自由貿易協定（FTA）はないが、韓国・中米（コスタリカ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、パナマの5カ国）FTAが2017年3月に仮署名、2018年2月に正式署名され（同FTA発効後にグアテマラが参加予定）、同年5月にメルコスールとの通商協定の交渉開始が宣言された。さらに、同年6月に、ロシアとの間で、サービス・投資分野のFTA交渉開始に向け、国内での手続きを始めることで合意した。

既存のFTAを巡っては、韓米FTAの見直し交渉が2018年1月に開始、3月に大筋合意が発表された。争点だった自動車貿易については、米国の貨物自動車の関税撤廃時期を2021年から2041年に20年間延期すること、韓国がメーカー当たり年間5万台（現行は2万5,000台）まで米国の自動車安全基準を満たした車両を韓国の安全基準を満たしたものとみなすことで合意した。あわせて、米国の1962年通商拡大法232条に基づく鉄鋼への関税賦課に関して、韓国を適用除外にする一方で、韓国産鉄鋼の対米輸出量について2015～2017年の平均輸出量（383万トン）の70%（268万トン）に当たる

クォータ（輸出数量枠）を設定することでも合意した。

■対内直接投資は不動産、化学工業などが増加

2017年の対内直接投資（申告ベース、以下同じ）は前年比7.7%増の229億4,316万ドルを記録、過去最高となった。産業通商資源部では、対内直接投資が増加した理由として、「韓国経済に対する海外企業の高い信頼」「韓国の大手企業との協力関係の拡大」「韓国の第4次産業革命への

表4 韓国のFTA発効・署名・交渉状況

（単位：％）

| 対象国・地域等 | 発効日 | 韓国の貿易に占める構成比（2017年） | | | |
|---------|----------|---------------------|------|------|------|
| | | 往復 | 輸出 | 輸入 | |
| 発効済み | チリ | 2004年4月1日 | 0.5 | 0.3 | 0.8 |
| | シンガポール | 2006年3月2日 | 2.0 | 2.0 | 1.9 |
| | EFTA | 2006年9月1日 | 0.9 | 0.9 | 0.8 |
| | ASEAN | 2007年6月1日 | 14.2 | 16.6 | 11.2 |
| | インド | 2010年1月1日 | 1.9 | 2.6 | 1.0 |
| | EU | 2011年7月1日 | 10.6 | 9.4 | 12.0 |
| | ペルー | 2011年8月1日 | 0.3 | 0.2 | 0.4 |
| | 米国 | 2012年3月15日 | 11.3 | 12.0 | 10.6 |
| | トルコ | 2013年5月1日 | 0.7 | 1.1 | 0.2 |
| | オーストラリア | 2014年12月12日 | 3.7 | 3.5 | 4.0 |
| | カナダ | 2015年1月1日 | 0.9 | 0.8 | 1.1 |
| | 中国 | 2015年12月20日 | 22.8 | 24.8 | 20.5 |
| | ニュージーランド | 2015年12月20日 | 0.2 | 0.2 | 0.3 |
| | ベトナム | 2015年12月20日 | 6.1 | 8.3 | 3.4 |
| | コロンビア | 2016年7月15日 | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| 合計 | — | 68.2 | 72.4 | 63.0 | |
| 署名済み | 中米（注） | — | 0.2 | 0.4 | 0.1 |
| 交渉中 | 日本、中国 | — | 30.6 | 29.4 | 32.0 |
| | RCEP | — | 50.6 | 52.4 | 48.5 |
| | エクアドル | — | 0.1 | 0.1 | 0.0 |
| | イスラエル | — | 0.2 | 0.2 | 0.2 |
| | メルコスール | — | 1.1 | 1.2 | 0.9 |

〔注〕コスタリカ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、パナマの5カ国

〔出所〕産業通商資源部、韓国貿易協会

表5 韓国の国・地域別対内・対外直接投資

（単位：100万ドル、％）

| | 対内直接投資（申告ベース） | | | | | 対外直接投資（実行ベース） | | | |
|----------|---------------|--------|-------|----------|----------|---------------|--------|-------|---------|
| | 2016年 | | 2017年 | | | 2016年 | | 2017年 | |
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 | | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| アジア大洋州 | 8,145 | 8,237 | 35.9 | 1.1 | アジア | 11,023 | 12,286 | 28.1 | 11.5 |
| 日本 | 1,246 | 1,842 | 8.0 | 47.9 | 日本 | 320 | 832 | 1.9 | 159.9 |
| シンガポール | 2,347 | 1,793 | 7.8 | △23.6 | 香港 | 1,560 | 2,971 | 6.8 | 90.5 |
| 香港 | 2,118 | 1,792 | 7.8 | △15.4 | 中国 | 3,368 | 2,969 | 6.8 | △11.9 |
| インドネシア | 4 | 1,051 | 4.6 | 28,290.5 | ベトナム | 2,370 | 1,955 | 4.5 | △17.5 |
| 中国 | 2,049 | 809 | 3.5 | △60.5 | シンガポール | 1,175 | 1,022 | 2.3 | △13.1 |
| フィリピン | 4 | 511 | 2.2 | 13,457.7 | インドネシア | 660 | 669 | 1.5 | 1.5 |
| 欧州 | 7,490 | 7,295 | 31.8 | △2.6 | インド | 340 | 514 | 1.2 | 51.1 |
| 英国 | 360 | 2,218 | 9.7 | 516.2 | 北米 | 14,796 | 15,766 | 36.1 | 6.6 |
| オランダ | 1,547 | 1,711 | 7.5 | 10.5 | 米国 | 13,555 | 15,287 | 35.0 | 12.8 |
| マルタ | 4,059 | 1,051 | 4.6 | △74.1 | カナダ | 1,242 | 479 | 1.1 | △61.4 |
| ドイツ | 312 | 703 | 3.1 | 125.2 | 欧州 | 4,401 | 6,844 | 15.7 | 55.5 |
| イタリア | 297 | 341 | 1.5 | 14.8 | ルクセンブルク | 881 | 1,558 | 3.6 | 76.9 |
| フランス | 194 | 280 | 1.2 | 44.6 | アイルランド | 72 | 1,512 | 3.5 | 2,004.7 |
| スイス | 75 | 226 | 1.0 | 202.4 | 英国 | 938 | 1,108 | 2.5 | 18.2 |
| スウェーデン | 7 | 203 | 0.9 | 2,794.0 | ガーンジー | 283 | 625 | 1.4 | 120.6 |
| 中東 | 397 | 1,066 | 4.6 | 168.6 | 中南米 | 6,048 | 7,000 | 16.0 | 15.8 |
| アラブ首長国連邦 | 36 | 1,014 | 4.4 | 2,746.9 | ケイマン諸島 | 4,460 | 4,978 | 11.4 | 11.6 |
| 米州 | 5,257 | 6,303 | 27.5 | 19.9 | ブラジル | 688 | 459 | 1.1 | △33.3 |
| 米国 | 3,873 | 4,710 | 20.5 | 21.6 | メキシコ | 436 | 457 | 1.0 | 4.7 |
| バミューダ諸島 | 361 | 727 | 3.2 | 101.4 | 英領バージン諸島 | 26 | 411 | 0.9 | 1,492.0 |
| カナダ | 326 | 389 | 1.7 | 19.4 | 中東 | 1,089 | 652 | 1.5 | △40.1 |
| ケイマン諸島 | 415 | 264 | 1.1 | △36.4 | アフリカ | 158 | 236 | 0.5 | 49.0 |
| 英領バージン諸島 | 259 | 197 | 0.9 | △24.2 | 大洋州 | 1,583 | 913 | 2.1 | △42.3 |
| アフリカ | 8 | 40 | 0.2 | 411.8 | オーストラリア | 1,299 | 680 | 1.6 | △47.6 |
| 合計 | 21,296 | 22,943 | 100.0 | 7.7 | 合計 | 39,097 | 43,696 | 100.0 | 11.8 |

〔注1〕対内直接投資は現地法人のみ。

〔注2〕対内直接投資は2017年上位20カ国・地域、対外直接投資は同上位18カ国・地域を掲載。

〔出所〕産業通商資源部、韓国輸出入銀行

表6 業種別対内・対外直接投資

(単位：100万ドル、%)

| | 対内直接投資 (申告ベース) | | | | 対外直接投資 (実行ベース) | | | | |
|-----------------|----------------|--------|-------|---------|----------------|--------|--------|-------|-----------|
| | 2016年 | | 2017年 | | 2016年 | | 2017年 | | |
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 | |
| 農・畜・水産・鉱業 | 55 | 21 | 0.1 | △61.5 | 農業、林業および漁業 | 105 | 113 | 0.3 | 7.8 |
| 農・畜・林業 | 53 | 11 | 0.0 | △79.3 | 鉱業 | 2,792 | 1,598 | 3.7 | △42.8 |
| 漁業 | 1 | 8 | 0.0 | 625.6 | 製造業 | 8,116 | 7,838 | 17.9 | △3.4 |
| 鉱業 | 0 | 2 | 0.0 | 1,771.8 | 電気、ガス、蒸気および空気 | 977 | 862 | 2.0 | △11.8 |
| 製造業 | 5,015 | 7,237 | 31.5 | 44.3 | 調節供給業 | | | | |
| 食品 | 166 | 163 | 0.7 | △1.7 | 水道、下水および廃棄物処理、 | 6 | 175 | 0.4 | 2,678.8 |
| 繊維・織物・衣類 | 72 | 72 | 0.3 | 0.7 | 原料再生業 | | | | |
| 製紙・木材 | 3 | 11 | 0.0 | 288.3 | 建設業 | 1,470 | 810 | 1.9 | △44.9 |
| 化学工業 | 1,450 | 2,924 | 12.7 | 101.6 | 卸売および小売業 | 5,796 | 9,574 | 21.9 | 65.2 |
| 医薬 | 265 | 352 | 1.5 | 32.9 | 運輸および倉庫業 | 1,152 | 1,358 | 3.1 | 18.0 |
| 非金属鉱物製品 | 178 | 100 | 0.4 | △44.0 | 宿泊および飲食店業 | 616 | 336 | 0.8 | △45.5 |
| 金属・金属加工製品 | 214 | 533 | 2.3 | 149.5 | 情報通信業 | 1,343 | 2,312 | 5.3 | 72.2 |
| 機械装置・医療精密 | 633 | 511 | 2.2 | △19.2 | 金融および保険業 | 9,367 | 13,628 | 31.2 | 45.5 |
| 電気・電子 | 969 | 1,509 | 6.6 | 55.7 | 不動産業 | 6,049 | 3,604 | 8.2 | △40.4 |
| 輸送用機械 | 945 | 903 | 3.9 | △4.5 | 専門、科学および技術サービ | 590 | 538 | 1.2 | △8.8 |
| その他製造 | 120 | 157 | 0.7 | 31.1 | ス業 | | | | |
| サービス業 | 15,512 | 15,364 | 67.0 | △1.0 | 事業施設管理、事業支援およ | 601 | 219 | 0.5 | △63.6 |
| 卸売り・小売り (流通) | 1,492 | 2,035 | 8.9 | 36.5 | び賃貸サービス業 | | | | |
| 宿泊・飲食店 | 816 | 1,539 | 6.7 | 88.5 | 公共行政、国防および社会保 | 0 | 258 | 0.6 | 345,100.8 |
| 運輸・倉庫 | 349 | 294 | 1.3 | △15.8 | 障行政 | | | | |
| 情報通信 | 2,024 | 1,326 | 5.8 | △34.5 | 教育サービス業 | 16 | 130 | 0.3 | 716.9 |
| 金融・保険 | 6,556 | 4,293 | 18.7 | △34.5 | 保健業および社会福祉サービ | 52 | 165 | 0.4 | 215.0 |
| 不動産 | 2,362 | 4,461 | 19.4 | 88.8 | ス業 | | | | |
| 事業支援・賃貸 | 142 | 159 | 0.7 | 11.9 | 芸術、スポーツおよび余暇関 | 33 | 122 | 0.3 | 268.0 |
| 研究開発・専門・科学技術 | 1,625 | 981 | 4.3 | △39.6 | 連サービス業 | | | | |
| 余暇・スポーツ・娯楽 | 70 | 201 | 0.9 | 187.7 | 協会および団体、修理および | 15 | 51 | 0.1 | 241.7 |
| 公共・その他サービス | 77 | 75 | 0.3 | △3.0 | その他個人サービス業 | | | | |
| 電気ガス・水道・環境浄化・建設 | 714 | 321 | 1.4 | △55.0 | 不明 | 1 | 6 | 0.0 | 292.9 |
| 電気・ガス | 320 | 144 | 0.6 | △54.9 | | | | | |
| 水道・下水・環境浄化 | 123 | 156 | 0.7 | 26.8 | | | | | |
| 総合建設 | 218 | 20 | 0.1 | △90.7 | | | | | |
| 専門職別工事 | 53 | 0 | 0.0 | △99.2 | | | | | |
| 合計 | 21,296 | 22,943 | 100.0 | 7.7 | 合計 | 39,097 | 43,696 | 100.0 | 11.8 |

[注] 対内直接投資は現地法人のみ。

[出所] 産業通商資源部、韓国輸出入銀行

関心の高まり」「不動産や卸売り・小売りといった一部のサービス産業への投資拡大」「政府の海外での積極的な投資誘致活動」の5点を挙げている。

地域別にみると、米州と中東からの直接投資が好調で、対内直接投資全体を牽引した。一方、アジア大洋州は微増、欧州は前年比2.6%減だった。ただし、欧州は2016年に前年比2.8倍と急増し、過去最高を記録しており、2017年も比較的高い水準が続いたとみるべきだろう。

主要国・地域別にみると、アジア大洋州では日本からの直接投資が最も多かった。次いで多かったのがシンガポールで、直接投資額の半分以上を不動産が占めた。ただし、2016年に活発だった金融・保険が大幅に減少したため、全体では前年比23.6%減となった。香港からは金融・保険が堅調だったが、2016年に好調だった電気・電子が大幅減となり、全体で前年比15.4%減となった。中国からの直接投資は前年比6割減と不振だった。製造業は7割減、サービス業も半減と、いずれも大きく減少した。さらに細かくみると、輸送用機械、金融・保険の減少幅が大きかった。後者は、2016年の安邦保険集団によ

るアリアンツ生命韓国法人買収のような大型M&Aがなかったことが響いた。産業通商資源部では、中国政府の対外直接投資政策（「対外投資の方向性のさらなる誘導・規範化に関する指導意見」、2017年8月通知）などの影響で中国からの直接投資が減少したとみている。さらに、インドネシアとフィリピンからの直接投資が急増したが、両国とも大部分が金融・保険に集中した。

欧州からは、2005年に次いで過去2番目の直接投資額を記録した英国が最も多かった。化学工業などの直接投資が活発だった。英国に次いで多かったオランダは電気・電子、卸売り・小売り（流通）の直接投資が多かった。

米州では、米国からの直接投資が好調で、国・地域別で投資金額が最も多かった。特に、不動産、宿泊・飲食店の直接投資が大幅に増加した。

中東では、アラブ首長国連邦からの直接投資が急増したが、その大部分が不動産だった。

ついで、2017年の対内直接投資について主要な業種をみると、製造業では化学工業が、サービス業では不動産、宿泊・飲食店が大幅に伸びた。半面、2016年に活発だっ

た金融・保険の対内直接投資は減少に転じた。

2018年第1四半期の対内直接投資は前年同期比28.1%増の49億3,373万ドルだった。国・地域別では中国が前年同期比6.4倍の10億4,829万ドルで、最も多かった。直接投資の8割が不動産だった。次いで、米国（7億3,836万ドル、同2.0倍）、英国（6億1,847万ドル、同6.8倍）の順となった。業種別では、製造業が同58.6%増の15億3,956万ドル、サービス業が同18.6%増の33億4,094万ドルだった。

なお、2017年1月から2018年5月までの主な対内直接投資事例は表7のとおりである。比較的大型の直接投資案件としては、ユニリーバ、HPによる韓国企業（事業部）買収などがあった。また、既存の韓国法人を資本増強する動きも幅広くみられた。

2018年通年の対内直接投資の見通しに関連して、産業通商資源部は同年4月の発表の中で、「米中貿易摩擦長期化による世界貿易規模の減少」「米国の利上げに伴う世界のM&A市場縮小」をマイナス要因として指摘する一方で、「南北関係改善による地政学的リスクの低下」「韓中経済交流の回復と、韓中FTA サービス・投資部門追加交渉の妥結可能性」をプラス要因として挙げている。その上で、同部では、対内直接投資4年連続200億ドルの達成に向けて、「第1四半期の対内直接投資が振るわなかった地域を中心とした投資誘致活動の展開」「外国人投資家・海外企業を対象にしたコミュニケーション活動の強化」「海外の投資政策・投資家動向のモニタリング」を行って

いくとしている。

■ 対外直接投資は過去最高を更新

2017年の対外直接投資（実行ベース、以下同様）は前年比11.8%増の436億9,635万ドルと、過去最高を更新した。地域別には欧州が5割以上増加し、アジア、北米、中南米、アフリカも増加した。半面、中東、大洋州は減少した。主要地域別にみると次のとおりである。

アジアで最も多かったのが香港だった。金融および保険業が急増し、過去最高を記録した。

香港に次いでアジアで多かったのが中国だった。前年比11.9%減の29億6,881万ドルとなったが、これは最も多かった2007年の5割強の水準にすぎない。韓国の対中直接投資は2008年に急減して以降、緩やかな減少傾向にある。韓国企業の生産拠点としての関心が中国からベトナムなど生産コストがより安い国にシフトした上に、中国企業向け需要など、内需獲得を目的とした直接投資も一巡しつつあることが影響している。直接投資の7割強は製造業だった。具体的には、サムスン電子が陝西省西安市の半導体工場を増強、SKハイニックスやLG化学が現地法人に追加出資、といった事例があった。他方、中国から撤退する事例もみられた。例えば、中国事業の業績不振が続いていたイーマートはタイ・CPグループへの店舗売却などを通じ2018年1月に中国から撤退、THAAD配備問題で大きな影響を受けたロッテマート（ロッテショッピングが運営）も中国からの撤退を進めている。

表7 韓国の主な対内直接投資案件（2017年1月～2018年5月）

| 時期 | 企業名 | 国・地域 | 投資額 | 概要 |
|--------------|--------------------|------------|-------------------------|---|
| 2017年 2月 | アントフィナンシャルサービスグループ | 中国 | 2億ドル | カカオペイがアントフィナンシャルサービスグループの出資を受け入れ、戦略的パートナーシップを締結。国内外でアリペイとカカオペイの連携を推進。 |
| | イケア | スウェーデン | 2,000億ウォン | 2019年秋開店予定の韓国3号店に向け、釜山市で土地取得、建物建設。 |
| 2017年 5月 | 神戸製鋼所 | 日本 | 3億1,500万ドル | 米国・ノベリスの現地法人と共に、蔚山市にアルミ板圧延品製造会社を折半出資で設立。母材供給能力を確保する狙い。 |
| 2017年 6月 | アイリスオーヤマ | 日本 | 約75億円 | グループ傘下のIRIS KOREA CO.,LTDが仁川市に家電製品生産工場新設を決定。韓国国内での家電製品生産・供給体制の強化、インターネット通販対応が目的。 |
| | 藍鼎国際発展 | 香港 | 3億ドル | 「済州神話ワールド」事業に追加投資。開発・運営資金に充当する目的。 |
| 2017年 9月 | ダブル・スコープ | 日本 | 約200億円 | 韓国子会社にリチウムイオン二次電池用セパレータ生産ラインを4ライン増設。電気自動車のグローバル市場拡大などを見込む。 |
| | ユニリーバ | 英国・オランダ | 3兆1,000億ウォン | エステ化粧品ブランド「AHC」などを有するカーバーコリアを買収。アジア市場強化を狙う。 |
| 2017年 10月 | 東レ | 日本 | ①約2,000億ウォン、②約1,500億ウォン | 急増するバッテリーセパレータフィルム（BSF）需要を取り込む目的で、①約2,000億ウォンを投じ、東レバッテリーセパレータフィルム韓国のBSF年産能力を約50%増強し、②約1,500億ウォンを投じ、東レBSFコーティング韓国のBSF用コーティング能力を約400%増強することを決定。 |
| 2017年 11月 | HP | 米国 | 10億5,000万ドル | サムスン電子のプリンター事業部を買収。プリンターの効率、データセキュリティ能力、価格競争力をさらに高める狙い。 |
| 2017年 12月 | ミーレ | ドイツ | 520億ウォン | 韓国のロボット掃除機メーカーであるユジンロボットが実施した第三者割当増資を引き受け、最大株主に。戦略的協力関係の強化を狙う。 |
| 2018年 1月 | カーセールズ・ホールディングズ | オーストラリア | 2,050億ウォン | 中古車売買サイト運営などのSKエンカー・ドットコムの子会社50.01%をSKから取得。 |
| 2018年 2月 | テンセント | 中国（シンガポール） | 500億ウォン | カカオゲームズが実施した第三者割当増資をシンガポール子会社経由で引き受け。 |
| 2018年 4月 | 青島双星 | 中国 | 6,463億ウォン | 錦湖タイヤの第三者割当増資を引き受けを決定。同社の株式45%を持つ筆頭株主へ。 |

〔注〕 進出済み企業の追加投資などを含む。

〔出所〕 各社発表および報道などから作成

香港、中国に次いでアジアで多かったのがベトナムで、2016年に次ぐ過去2番目に高い水準と、活発な投資が続いた。全体の7割以上を製造業が占めた。製造業の内訳をみると、エレクトロニクス、次いで、繊維が多かった。前者については、サムスンディスプレイがディスプレイパネル工場の増強を発表した他、エレクトロニクス部品メーカー各社の工場新增設があった。製造業以外では、卸売および小売業、金融および保険業、不動産業などで、ベトナム内需獲得を狙った直接投資があった。このうち、金融および保険業では、KB証券によるマリタイム証券買収や、新韓銀行によるオーストラリア・ニュージーランド銀行（ANZ）ベトナム・リテイル部門の買収といったM&A案件がみられた。不動産業では、ロッテグループによるホーチミン市「エコ・スマートシティ」開発案件などがあった。

その他では、インド向け直接投資が5割以上増加した

のが目を引く。インド向け直接投資の8割が製造業で、自動車、食品分野の直接投資が特に多かった。前者については、起亜自動車の進出が大きく牽引した。

北米では、米国向け直接投資が過去最高を記録した。業種別には、卸売および小売業が全体の44%と圧倒的に多かったが、これは、サムスン電子による電装部品大手・ハーマンインターナショナル買収によるところが大きい。買収が同社の米国法人で行われたため、米国法人が分類される卸売および小売業に計上されている。他方、製造業では、米国の緊急輸入制限措置（セーフガード）に対応したLG電子、サムスン電子の洗濯機工場建設などの事例がみられた。

欧州向け直接投資は2010年（62億5,434万ドル）を抜き、過去最高を記録した。国別には、最も多かったルクセンブルクは不動産業、金融および保険業が、次いで多かったアイルランドは卸売および小売業が、さらに英国

表8 韓国の主な対外直接投資案件（2017年1月～2018年5月）

| 時期 | 企業名 | 投資国 | 投資額 | 概要 |
|----------|------------|--------|---------------------|--|
| 2017年1月 | サムスンディスプレイ | ベトナム | 25億ドル | バクニン省の携帯電話用ディスプレイパネル工場を増強する方針を発表。有機ELパネル需要の拡大に対応する目的。 |
| | ロッテ資産開発 | ベトナム | 3,300億ウォン | 複合ショッピングモール「ロッテハノイ」開発事業のための現地法人を設立。2020年完工予定。 |
| 2017年2月 | 暁星 | ベトナム | 12億ドル | バリアンタウ省カイメップ産業団地にプロパン脱水素・ポリプロピレン工場、液化石油ガス貯蔵所など石油化学生産施設を建設する了解書（MOU）をベトナム政府と締結。ベトナム・中国・東南アジア市場でのシェア拡大を狙う。 |
| | LS電線 | ミャンマー | 1,800万ドル | ティラワ経済特別区（SEZ）で現地法人を設立し、電線工場を建設。 |
| | LG電子 | 米国 | 2億5,000万ドル | テネシー州に年産100万台規模の洗濯機工場を建設する了解書（MOU）を締結。2019年第1四半期に生産開始予定。（その後、2018年1月に、年内生産開始を目指す方針を発表。） |
| 2017年3月 | サムスン電子 | 米国 | 80億2,000万ドル | 自動車部品大手で、コネクテッドカーやオーディオ分野に強いハーマンインターナショナルを買収（2016年11月発表、2017年3月買収完了）。自動車関連事業の強化を目指す。 |
| 2017年4月 | 現代モータース | チェコ | 1,400億ウォン | 車載用ランプ工場が完成、生産開始。現代自動車・起亜自動車の欧州生産拠点に供給すると共に、欧州メーカーへの販売を目指す。 |
| | 起亜自動車 | インド | 11億ドル | アンドラ・プラデシュ州に年産30万台規模の乗用車工場建設を決定。インド市場の開拓を目指す。 |
| 2017年6月 | サムスン電子 | 米国 | 3億8,000万ドル | サウスカロライナ州に洗濯機（年産100万台）などを生産する家電工場の建設計画を発表。（その後、2018年1月に竣工。） |
| 2017年7月 | SKハイニックス | 中国 | 2,519億ウォン | 中国国内の投資機会に適宜対応するため、現地法人・SKチャイナに追加出資。 |
| | ロッテグループ | ベトナム | 8億8,600万ドル（投資認可額） | ロッテグループのベトナム合弁会社とホーチミン市が「エコ・スマートシティ」開発に向け合意。10万㎡の敷地を造成。このうち、5万㎡に百貨店・ショッピングモール、ホテル・レジデンス、オフィスなどの複合団地を建設。 |
| 2017年8月 | サムスン電子 | 中国 | 70億ドル | 中長期的なNAND型フラッシュメモリー需要の増加に対応するため、陝西省の西安工場に第2生産ラインを建設。世界最大のNAND型フラッシュメモリー需要国中国での競争力を強化。 |
| 2017年10月 | LG化学 | 中国 | 1,377億ウォン | 小型電池生産能力拡大のため、江蘇省南京市の現地法人に追加出資。 |
| 2017年11月 | SKイノベーション | ハンガリー | 8,402億ウォン | 電気自動車向けリチウムイオン電池工場建設を決定。生産規模は7.8GWh（25万台の電気自動車に供給可能）。2019年下半年竣工予定。 |
| | ロッテ製菓 | インド | 1,645億ウォン | ハブモルアイスクリームの株式100%を取得。インド・アイスクリーム市場への進出を通じ、インド製菓事業を強化する。 |
| 2018年3月 | ハンファ生命 | ベトナム | 1,500億ウォン | 法規定対応の資本金増額のため、ベトナム法人への追加出資を決定。 |
| 2018年4月 | LG化学 | 中国 | 2,394億ウォン（合弁会社2社合計） | 正極材、同コア材料の前駆体の生産会社を浙江華友鋅業との合弁でそれぞれ設立。原材料からバッテリーまでの垂直統合体制の構築を狙う。 |
| | LG電子、LG | オーストリア | 1兆4,440億ウォン | 自動車用ライト大手のZKWホールディングの株式100%を買収。LG電子が70%、グループ持ち株会社のLGが30%を出資。自動車部品事業の強化を狙う。 |

〔注〕 進出済み企業の追加投資などを含む。

〔出所〕 各社発表および報道などから作成

は金融および保険業が、それぞれ特に多かった。なお、製造業の欧州向け直接投資に関しては、現代モービス、SK イノベーションなどが中・東欧諸国に生産拠点を構築する動きなどがみられた。

中南米向け直接投資は70億21万ドルで、2016年に次いで過去最高を更新した。中南米地域の7割以上を占めたケイマン諸島は全体の8割を金融および保険業が占めた。なお、直接投資が急増した英領バージン諸島は全額が金融および保険業だった。

ついで、2017年の対外直接投資を業種別にみると、2016年に比べ特に大きく増加したのが卸売および小売業、金融および保険業だった。前者はサムスン電子による米国・ハーマンインターナショナル買収が底上げした。他方、製造業は小幅減、鉱業は減少傾向が続いた。不動産業も4割減少したが、これは2016年に急増した反動によるところが大きい。

2018年第1四半期は前年同期比28.2%減の96億1,471万ドルだった。大幅減になったのは、2017年第1四半期に前述のサムスン電子のM&A案件の反動によるところが大きく、対外直接投資が不振だったというわけではない。ちなみに、対米直接投資を除くと、34.1%増になる。

なお、2017年1月から2018年5月までの主要な対外直接投資事例をまとめると表8のとおりである。

■対日輸出が6年ぶりに増加

2017年の対日貿易は輸出が前年比10.1%増の268億ドル、輸入が16.1%増の551億ドルだった。対日輸出は2011年以来、6年ぶりの増加、対日輸入は2年連続の増加となった。品目別にみると、輸出入とも素材、部品など生産財が上位に並んでおり、鉄鋼板、半導体、精密化学原料が輸出入いずれも上位10品目に入るなど、日韓貿易は水平貿易の傾向が強い。

対日輸出上位10品目をみると、多くの品目が増加したが、特に、石油製品、鉄鋼板が30%台の大幅な増加となった。石油製品は価格上昇によるところが大きい。鉄鋼板については、産業通商資源部では「東京五輪特需と都心再開発に伴うもの」とみている。一方、対日輸入上位10品目をみると、半導体製造装置が2.3倍になったほか、フラットパネルディスプレイ製造装置も5割近く増加した。これら装置の対日輸入増加は、韓国企業の半導体や有機ELパネルの生産能力増強によるものである。

2017年の対日貿易収支は283億ドルの赤字だった。韓国の対日貿易収支は、構造的に赤字が続いており、2015年以降、日本が最大の貿易赤字相手国となっているが、韓国の対世界貿易収支が過去最大の黒字を更新する中で、対日貿易赤字を問題視する動きは特に顕在化していない。

表9 韓国の対日品目別輸出入（上位10品目）＜通関ベース＞
（単位：100万ドル、%）

| 輸出 (FOB) | | | | | |
|------------|-------------------|--------|--------|-------|-------|
| 順位 | 品目名 | 2016年 | | 2017年 | |
| | | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 1 | 石油製品 | 2,317 | 3,052 | 11.4 | 31.7 |
| 2 | 鉄鋼板 | 1,562 | 2,113 | 7.9 | 35.3 |
| 3 | 半導体 | 1,471 | 1,180 | 4.4 | △19.8 |
| 4 | 自動車部品 | 914 | 937 | 3.5 | 2.5 |
| 5 | 精密化学原料 | 635 | 841 | 3.1 | 32.5 |
| 6 | 金銀および白金 | 1,022 | 780 | 2.9 | △23.7 |
| 7 | プラスチック製品 | 703 | 776 | 2.9 | 10.3 |
| 8 | 合成樹脂 | 594 | 723 | 2.7 | 21.6 |
| 9 | 鍛造品 | 555 | 610 | 2.3 | 10.1 |
| 10 | 嗜好食品 | 493 | 597 | 2.2 | 21.2 |
| 合計（その他を含む） | | 24,355 | 26,816 | 100.0 | 10.1 |
| 輸入 (CIF) | | | | | |
| 順位 | 品目名 | 2016年 | | 2017年 | |
| | | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| 1 | 半導体製造装置 | 2,530 | 5,742 | 10.4 | 127.0 |
| 2 | 半導体 | 4,064 | 4,672 | 8.5 | 14.9 |
| 3 | プラスチック製品 | 2,297 | 2,372 | 4.3 | 3.3 |
| 4 | 鉄鋼板 | 2,234 | 2,332 | 4.2 | 4.4 |
| 5 | フラットパネルディスプレイ製造装置 | 1,420 | 2,064 | 3.7 | 45.3 |
| 6 | 基礎留分 | 1,608 | 1,793 | 3.3 | 11.5 |
| 7 | 精密化学原料 | 1,277 | 1,471 | 2.7 | 15.2 |
| 8 | 光学機器 | 1,358 | 1,429 | 2.6 | 5.2 |
| 9 | 原動機およびポンプ | 1,295 | 1,422 | 2.6 | 9.9 |
| 10 | 計測制御分析器 | 1,197 | 1,403 | 2.5 | 17.3 |
| 合計（その他を含む） | | 47,467 | 55,125 | 100.0 | 16.1 |

〔注〕韓国独自コードのMTI3桁ベースで2017年輸出入上位10品目。
〔出所〕韓国貿易協会

なお、2018年第1四半期の対日貿易は、輸出が前年同期比16.5%増、輸入が6.1%増と、いずれも増加基調が続いた。

■日本の対韓直接投資は5年ぶりに増加

2017年の日本の対韓直接投資（申告ベース、以下同様）は前年比47.9%増の18億4,243万ドルだった。日本の対韓直接投資は2012年（45億4,161万ドル）をピークに減少が続いてきた。2017年が大幅増となったのは、2016年までの減少の反動によるところも大きいだが、同時に、半導体、車載用電池、有機ELパネルといった分野での顧客である韓国企業の伸長を見込んだ投資がみられたことなども作用したものと考えられる。

業種別には、製造業は45.7%増の9億6,601万ドル、サービス業は58.8%増の8億6,611万ドルと、いずれも回復した。製造業では、金属・金属加工製品（3億2,095万ドル、7,462.3%増）、化学工業（2億6,231万ドル、3.1%減）、電気・電子（2億3,723万ドル、125.3%増）が多かった。他方、サービス業では、不動産（3億405万ドル、624.8%増）が最多で、次いで、卸売り・小売り（1億6,439万ドル、30.7%減）が多かった。

具体的な案件では、製造業では、既存の韓国企業向け素材生産拠点の生産能力を増強する動きがみられた。例

えば、住友化学は韓国拠点・東友ファインケムの有機ELパネル向けフィルムタイプタッチセンサー生産能力の増強を決定した（2017年3月7日発表）。東レは東レバッテリーセパレータフィルム韓国のリチウムイオン二次電池用バッテリーセパレータフィルム（BSF）年産能力増強と、東レBSFコーティング韓国のBSF用コーティング設備増設を決定した（2017年10月19日発表）。また、韓国消費市場を狙った生産拠点新設の動きもあった。例えば、アイリスオーヤマは韓国国内での家電製品生産・供給体制の強化などを目的に家電製品生産工場の新設を決定（2017年6月1日発表）、味の素は韓国での粉末スープ拡販のため、粉末スープ生産の合弁会社設立を決定した（2017年12月21日発表）。さらに、輸出向け生産拠点を構築する動きも見られた。例えば、神戸製鋼所は、米国系企業との合弁でアルミ板圧延品製造の会社設立を決定した（2017年5月10日発表）。合弁会社の生産品は母材として日本・中国の生産拠点に供給する計画である。

他方、サービス業では、日立製作所が昇降機の販売・サービスを行う子会社を設立（2017年12月4日発表）、相鉄ホールディングスがソウル市に直営ホテルアジア1号店を出店（2017年12月25日発表）といった事例がみられた。

2018年第1四半期の日本の対韓直接投資は前年同期比9.6%減の3億6,827万ドルだった。製造業が電気・電子の減少を受けて52.4%減となった半面、サービス業は16.2%

増を記録した。具体的な案件としては、帝人が旺盛なセパレータ需要に対応すべく、韓国の生産会社のセパレータ第3系列増設を決定（2018年2月6日発表）、三菱電機がグローバル市場、韓国市場での事業拡大のためエレベーター新工場を稼働開始（2018年2月26日発表）といった投資拡大の事例がみられた。

■対日直接投資は不動産業が急増

2017年の韓国の対日直接投資（実行ベース、以下同様）は、2016年の2.6倍の8億3,168万ドルだった。高い伸び率は2016年の不振の反動もあるが、水準自体も2016年（8億903万ドル）を超え、過去最高を記録した。業種別には不動産業が2016年の6.2倍の3億3,499万ドルに急増、2017年の対日投資全体の40.2%を占め、対日直接投資を牽引した。なお、2018年第1四半期の対日直接投資は前年同期比1.8%増の1億8,836万ドルだった。

具体的な案件をみると、日本企業を買収した事例が散見された。各社の発表によると、2017年1月、MBKパートナーズグループのMBKPリゾートがアコーディア・ゴルフを買収、同年7月、同グループのスターダストがTASAKIを買収した。また、同年9月、KTB資産運用はショッピングセンター「イオンタウン防府」を買収した。さらに、2018年4月、LG生活健康が日本事業強化の一環として、子会社の銀座ステファニー化粧品を通じて、エイボン・プロダクツの全株式を105億円で買収した。